

○機関誌編集委員会

□特別顧問

▶松井 大悟
日本非開削技術協会会長

□委員長

▶石川 和秀
㈱日本下水道管渠推進技術協会専務理事

□委員

▶秋山 浩志
コマツ地下建機㈱エンジニアリング企画グループGM

▶伊藤 和彦
日本ゼニスパイプ㈱代表取締役社長

▶岩田 洋
芦森工業㈱バルテム・ジオカンパニー付参与

▶塩冶 幸男
東京電力㈱工務部地中送電グループ課長

▶安藤 茂
㈱水道技術研究センター常務理事

▶大谷 英之
㈱イセキ開発工機取締役営業本部長

▶小幡 弘喜
㈱協和エクシオ監査役

▶木下 浩次
㈱奥村組技術本部土木部長

▶黒岩 正信
アイレック技建㈱営業開発本部探査開発部長

▶葛ヶ谷 哲
東京ガス㈱パイプライン技術センター

▶土山 和夫
㈱道路管理センター常務理事

▶堀地 紀行
国土館大学工学部教授

▶松村 正男
関西電力㈱電力システム技術センター送電G課長

▶森岡 真一
積水化学工業㈱環境土木システム事業部部長

▶山崎 義広
㈱三水コンサルタント東京支社技術部長

○機関誌編集企画小委員会

□特別顧問

▶松井 大悟
日本非開削技術協会会長

▶石川 和秀
㈱日本下水道管渠推進技術協会専務理事

□編集企画小委員長

▶和田 洋
㈱奥村組営業本部土木営業部部長代理

□委員

▶秋山 浩志
コマツ地下建機㈱エンジニアリング企画グループGM

▶今川 明
積水化学工業㈱環境土木システム事業部課長

▶岩田 洋
芦森工業㈱バルテム・ジオカンパニー付参与

▶塩冶 幸男
東京電力㈱工務部地中送電グループ課長

▶川合 孝
㈱協和エクシオ都市土木設計積算G課長

▶黒岩 正信
アイレック技建㈱営業開発本部探査開発部長

▶塩見 昌紀
日本ゼニスパイプ㈱常務取締役企画本部長

▶葛ヶ谷 哲
東京ガス㈱パイプライン技術センター

○編集スタッフ

事務局長：森田 芳樹
編集：赤坂 誠

○提携媒体

1. Trenchless Technology International (TTI)
2. Tunnelling and Trenchless Construction (TTC)

道路を掘らない技がここにある
環境にやさしい非開削技術

季刊
NO-DIG
TODAY



No.56
2006 Jul.

目次

2	●No-Dig 2006プリスペーンのご案内	
5	●写真速報 写真速報 第17回通常総会懇親会	
6	●特集/非開削による小口径管路の建設 特集のねらい「進化する小口径管路の建設技術」	
7	総論/さらに進化をし続ける小口径推進工法の現状	本誌編集企画小委員会委員 秋山 浩志
11	技術解説/進化する曲線位置計測技術「prism」エースモールDL工法	㈱日本下水道管渠推進技術協会小口径部会長 千田 尚
17	” /アングルモールエクシード工法による岩盤層及び粘性土層の小口径推進施工	アイレック技建㈱技術本部 天野 敏男
22	” /玉石地盤でのスーパーミニロックの施工	㈱イセキ開発工機 営業部 江藤 寿恭
27	” /ベルスタモール・ミニ工法の自動測量システム	スーパー21協会 寺井 徳雄
32	” /土被り2m以上で開発工法より経済性に優れ周辺住民や環境にもやさしいアトラス工法	進和技術開発㈱開発部 宮崎 勝
37	” /鋼製鞘管工法の中込注工における周辺住民と作業環境に配慮した泡モール工法	アトラス工法協会 副会長 熊谷 幸市
42	●海外施工報告/SPR工法による米国ロサンゼルスの大口径馬蹄形老朽管の更生施工	泡モール工法研究会 会長 恩田 實
47	●国内施工報告/天然ガス輸送導管(鋼管200mm)国道50号弧状横断埋設工事「フローモール工法」	積水化学工業㈱環境土木システム事業部 菅原 宏
51	●海外レポート/トレンチレスアジア2006上海報告	㈱キャプティ パイプライン事業部テクノセンター 岡部 英造
59	●非開削アカデミー/JSTTの現役委員2名が博士号を取得	本誌編集企画小委員長 和田 洋
64	” /特別講演「患者に優しい手術、地球に優しい非開削技術」を拝聴して	㈱奥村組 和田 洋
66	●洋行通信/其の壱 大英帝国の歴史と文化に懐の深さを思ふ	国土館大学 工学部教授 堀地 紀行
68	●知って得する身近なScience 「ジョニー・ウォーカーのように」	西尾 宣明
72	●The HDD News	
73	●UP DATE	
75	●新入会員紹介	
77	●JSTT委員会	
78	●編集後記	本誌編集委員長 石川 和秀

表紙の写真

小口径管路の建設では管内部のスペースが限られており、中大口径管路の建設技術では当たり前の技術である曲線施工技術や岩盤や玉石地盤などへの掘削が難しいとされてきた。そんな無理難題を克服した技術がこの号にあふれている。表紙の写真は最大径200mmといわれる礫層をアングルモールエクシードがφ250のヒューム管を従えて、今まさに挑もうとしている瞬間である。